南港生きもの発見隊＆南港生きもの育て隊

ＮＰＯ法人南港ウェットランドグループ
理事長　髙田 博、副理事長・事務局長　○石井 正春、副理事長　小野 千秋

１．活動方針・目的

昭和58年に開園した大阪南港野鳥園には、干潟が人工的に創出されていて、渡り鳥であるシギ・チドリ類の重要な生息地となっています。「ＮＰＯ法人南港ウェットランドグループ(前身の環境NGO「南港クループ’96」は平成8年に結成)」は、この大阪南港野鳥園において「渡り鳥が利用し、多様な生きものが生息する湿地を創出し、その保全が地域の活動となること」を目的とし、①環境の監視と生物総合調査、②湿地を健全に維持するための環境保全作業、③湿地の役割や楽しさを伝えるための教育・普及活動、④ネットワーク参加地間の交流を継続的に実施しています。また、平成18年度からは大阪南港野鳥園の運営管理も行っています。

２．活動内容

シギ・チドリ類などの野鳥や干潟の生きもの調査、来園者への観察指導だけでなく、月に1回以上、野鳥や干潟の生きもの観察会、環境教育プログラム講習会を主とした「南港生きもの発見隊」、「アオサ取り(大量に発生する海藻類の除去作業)」や、湿地部の清掃などの環境保全作業を主とした「南港生きもの育て隊」を開催し、多くの市民の方に参加していただいています。大阪市住之江区の探鳥会などに協力し、地元高校での環境教育プログラムの実習、大阪市こども青少年局「サマースクールシティ事業（夏休み期間中子どもを対象に調査、観察、環境保全、環境教育などの実習)」も実施し、大阪市港湾局「リフレッシュ瀬戸内」、「クリーンアップキャンペーン」などの湿地の清掃にも協力しています。観察や環境保全作業を通して、大阪湾、干潟を含む湿地、シギ・チドリ類、生物多様性、環境について学習できる場を提供しています。

３．他の活動団体の参考となる事例

ＮＰＯ法人南港ウェットランドグループは、シギ・チドリ類の重要な生息地としての野鳥園の重要性を熟知し、継続的に活動していた会員が主体となっており、地域(大阪市港湾局総務部集客施設担当、住之江区役所区民企画担当等)との連携にも重点を置いています。また、大阪市市民情報公開室や大阪市立総合学習センターでの広報、園ＨＰ、マスメディア等を積極的に活用して、市民へのＰＲも展開し、市民参加型の「南港生きもの発見隊」、「南港生きもの育て隊」を開催しています。

４．今後の課題等

毎年、大阪湾、干潟を含む湿地、シギ・チドリ類、生物多様性、環境をテーマにイベントを継続して実施しているのですが、イベント内容のマンネリ化を避けるために、新規のイベント企画、運営をし、野鳥園来園のリピーターを確保していくことが必要です。また、ジュニア、シニアのリピーターや、環境保全ボランティアの緩やかなクループ化も図っていくことが必要となってきています。他の活動団体には、このような点で参考となる意見をお尋ねしたいと考えています。

第6回「関西元気来な地域づくり発表会」
平成23年2月1日（火） ドーンセンター

南港生きもの発見隊
＆
南港生きもの育て隊

NPO法人南港ウェットランドグループ
発表者：理事　石井　正春
（大阪南港野鳥園　園長）

大阪南港野鳥園の概要

大阪南港野鳥園は、南港埋立地区（咲洲・さきしま）の北西端、大阪港の入り口にあります。

昭和58（1983）年に開園。施設面積は19.3haで、潮の干満がある海水池と塩生湿地が広がる湿地部12.8ha、丘と観察路が廻る緑地部6.5ha。

大阪南港野鳥園の概要

干潮時、北池に広がる**干潟**。**干潟**には、多種多様な生きものが生息しています。

シギやチドリってどんな鳥？

- 湿地（干潟などの湿地や水辺）での生活に適応した鳥です。
- 湿地で、貝、ゴカイ、カニ、小さな昆虫などを食べます。
- 日本では75種以上が観察されています。
- 野鳥園では、53種が記録されています。
- シギやチドリの多くの種が**渡り鳥**です。

・東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに参加登録。

野鳥園によく渡来するシギやチドリ
右上から時計回りに、
トウネン（シギ）、キアシシギ（シギ）、
シロチドリ（チドリ）、コチドリ（チドリ）

野鳥園の環境保全

・大阪南港野鳥園指定管理者制度の導入
・レンジャーの配置

●目的…**渡り鳥が利用し、多様な生きものが生息する湿地を創出し、その保全が地域の活動となること。**

●人工的に創出された環境の保全には、行政、NPO、市民が協力して**活動を継続していくこと**が必要です。

① **環境の監視と生物総合調査**
野鳥や湿地の生きもの生息調査、環境調査、調査結果の解析など
② **湿地を健全に維持するための環境保全作業**
アオサ取り、清掃、ヨシ刈り、干潟の生きものの住処作り、植栽管理など
③ **湿地の役割や楽しさを伝えるための教育・普及活動**
観察指導、野鳥や湿地の生きものの観察会、環境教育プログラム講習会など
④ **フライウェイ・パートナーシップ参加地間の交流**
サミット、交流会、情報交換、協力など

「南港生きもの発見隊」、「南港生きもの育て隊」を開催。

「南港生きもの発見隊」

「南港生きもの発見隊」…野鳥や干潟の生きもの観察会や調査などがレンジャーの企画、NPOの協力で開催されています。

平成16(2004)年、大阪市平成16年度「大阪市環境表彰」受賞
平成18(2006)年、国土交通省平成18年度「手づくり郷土賞」(地域活動部門)受賞
平成23(2011)年、国土交通省平成22年度「手づくり郷土賞」(大賞部門)受賞

「南港生きもの育て隊　アオサ取り」

大量に発生し、干潟に悪影響を与えてしまうアオサ(海藻類)の除去作業。一般市民、地元ボーイスカウト、学生、企業ボランティアの方が参加。地元小学校の授業で実施する場合もあります。「アオサ取り」という環境保全活動、野鳥や干潟の生きものの観察を通して、大阪湾、湿地、シギ・チドリ類、生物多様性、環境について考える場となっています。

「南港生きもの発見隊＆南港生きもの育て隊」 まとめ

⇒ 社会資本(地域資源)を活かした
市民参加型プログラム(地域コミュニティ)

- シギ・チドリ類の重要な生息地としての大阪南港野鳥園の活用
- 市民参加型プログラムの実施
  - ・地域との連携
  - ・広報、マスメディア、HPの活用
  - ・市民参加型の継続した活動
    - ・活動のマンネリ化→新規イベント
    - ・リピーターの確保、緩やかなサポートグループの形成
    - ・緩やかな環境保全ボランティアグループの形成　など

他団体の活動も参考にして、今後の活動に活かしていけたらと考えています。